

埼玉県 MINJIKYO DAYORI

民児協だより



平成28年1月1日発行

No.147



幸せを呼ぶ直紀の世界 「東武動物公園のサル山」

画：飯野 直紀

明けましておめでとうございます。今年は申年ですね。東武動物公園（宮代町と白岡市にまたがって立地）の中にあるサル山では、アカゲザルが楽しそうに遊んでいます。ニホンザルよりちょっと小さく、尾の長い猿です。

目次	●平成28年知事メッセージ	2
	●会長年頭挨拶	3
	●平成27年度「主任児童委員セミナー」開催報告	4-5
	●平成27年度「全国主任児童委員研修会（東日本）」参加報告	6
	●平成27年度「第84回全国民生委員大会」参加報告	
	平成27年度各種表彰受章者等の紹介	7
	●平成28年度埼玉県の予算編成に対する要望書を提出/知事との意見交換会	8
	●平成27年度「生活福祉資金貸付制度説明会」「孤立防止フォーラム」開催報告	9
	●わがまちの民児協活動紹介ポ（吉川市・毛呂山町）	10-11
	●民生委員・児童委員の声（深谷市）、県民児協の3カ月の予定	12

埼玉県民児協だよりでは、「民生委員及び児童委員」を「民生委員」と、「民生委員・児童委員協議会」を「民児協」と表記しています。



この広報紙は、共同募金の配分金により発行されています。

「2025年問題」への挑戦

埼玉県知事 上田清司



明けましておめでとうございます。民生委員・児童委員の皆様には、健やかに平成28年の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

去年は首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の県内区間が全線開通し、本県の立地優位性がより高まりました。

また、ラグビーのワールドカップが2019年に日本で開催され、熊谷市が会場の一つになることが決まりました。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでも本県が会場となります。

さらに、本県にゆかりの深い方々がノーベル賞を受賞されました。

これらは本県の隆盛と可能性を象徴する出来事だと私は感じています。

一方で、「2025年問題」が将来の課題となっています。

2025年には団塊の世代が後期高齢者となり、医療・介護需要の爆発的な増大と、生産年齢人口の減少による社会活力の低下が懸念されています。

これに対応するために、私は3つの大きな取組に挑戦します。

第一は「シニア革命」です。超高齢社会の暗いイメージを変えるためには、高齢者も活躍できる社会をつくる必要があります。

高齢となっても働く意欲のある方は働き続け、地域活動に協力いただける方には様々な分野で社会貢献していただく。こうした社会を構築する、言わば「シニア革命」を大きなムーブメントにしていきたいと思います。

そこで、「健康長寿埼玉プロジェクト」を全県展開し、健康寿命を延ばします。

また、地域で安心して医療や介護サービスを受けることができる「地域包括ケアシステム」を、市町村と連携して構築します。

第二は「人財」の開発です。「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」を一層推進し、女性が活躍する埼玉を築きます。また、職業教育の充実で若者の活躍を促す一方、生活困窮世帯の子供への学習支援を更に進めます。

第三は「稼ぐ力」の強化です。「先端産業創造プロジェクト」をより加速させ、成長可能性の高い分野の事業化を支援し、新たな産業を県内に集積させます。また、中小企業の経営革新を支援し、生産性向上を図ります。

皆様の御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

「安心して生活できる」地域づくりに向けて

一般財団法人埼玉県民生委員・児童委員協議会

会長 奥 富 孝 一



明けましておめでとうございます。

民生委員・児童委員の皆様には、ご健勝にて平成28年の新春を迎えられましたことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は異常気象により、大型台風が多発し、全国各地に甚大な爪痕を残しました。県内においても幅広く風水害が発生しました。被害を受けられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、地区民生委員・児童委員の活躍に対し厚く御礼申し上げます。

さて、社会の急激な変化や人間関係の希薄化を背景とする孤立・いじめ・虐待そして詐欺被害などは依然として顕在化したままであり、特に心配なのは、生活困窮の固定化による子どもの貧困や貧困の連鎖が多いことです。また、介護離職による生活苦が「孤立」を招き、結果として「死」につながる事例が増加しつつあります。

昨年は、生活困窮者自立支援制度や子ども子育て支援新制度及び介護保険制度の改正が施行され、今年には障害者差別防止制度が施行されます。

民生委員・児童委員は、活動の性格から、福祉に協力する公的責任を帯びた委嘱ボランティアとも言われており、協力を規定している法律や制度は多岐にわたっています。そのため、地域福祉の中心的役割を期待されています。

本年は、三年に一度の一斉改選の年であります。

退任される委員の皆様におかれましては、残された任期を全うできるよう御留意いただくと共に、一層の御活躍を願うものであります。

私達民生委員・児童委員は、諸先輩より受け継いだ思いを次の世代へ確実に受け継ぐと共に、地域で苦しむ人々の「心のよりどころ」となり、「安心して生活できる」地域づくりに向けた活躍が期待されています。

今年も“隣人愛をもって、社会福祉の増進に努めましょう”

結びに、皆様の日々の御尽力に感謝申し上げますとともに、益々の御健勝と御多幸を御祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。

平成27年度「主任児童委員セミナー」開催報告

平成27年10月8日(木)さいたま市民会館おおみや大ホールにおいて、県内の市町村児童協会長、主任児童委員、市町村児童協児童関係部会長等670名が参加し、「平成27年度主任児童委員セミナー」が開催されました。

このセミナーは、本会主任児童委員会において企画・運営を行っており、今年度は、「地域住民とともに『わがまちならで』の活動を」テーマに掲げ、子育て世帯の孤立防止に向けた支援活動の一層の推進を図ることを目的に開催しました。

【講演】

《テーマ》

「主任児童委員・児童委員の子ども・子育て支援を考える」～子育ての現状を学び、今後の子育て支援活動につなげる～

《講師》

大正大学

人間学部 人間環境学科

教授 西郷 泰之 氏



会長挨拶
埼玉県民協
会長 奥富 孝一



委員長挨拶
埼玉県民協
主任児童委員会
委員長 大場 玲子

昭和30年前後までは、家庭や地域において子育てに関わり、支える人が多くいました。しかし現代は、働く女性が増えたこと等から社会や家庭環境が変化し、子育てに関わる人が激減しています。この時代背景の中で、お互いに支え合って子育て

ができる社会を作っていくことが必要です。

子育て家庭に対する社会の役割を、子どもの権利条約や民法、児童福祉法では、児童の最善の利益のために保護者が第一義的な養育責任を負い、養育についての責任を遂行する親たちへ社会が支援・協力することとしています。つまり、子育て支援は、子どもの成長・発達を保障する、子どもの権利保障を中心に考えていくことが必要となっています。

子どもと家庭の悩み・課題

① 孤立：10年前に比べ、孤立した子育てを防止するため子育て支援拠点は増加しましたが、「子どもを遊ばせながら、立ち話をする程度の人」がいる家庭が約1割減少しています。支援拠点だけでは孤立防止はできません。

② 格差：日本は子どもの貧困率が先進工業国中ワースト2位です。貧困は孤立の原因にも

なります。貧困の原因やその状況もストレスになり、人は適切な判断が出来なくなります。そこから虐待などの負のスパイラルが発生します。

③ 不全：児童相談所における虐待相談対応件数が増えています。ただ、虐待をする親を責めても解決はしません。例えば、年間に虐待で亡くなる子どもの約4割は心中です。その親の多くはうつ病です。そのような精神疾患のある親に適切な支援を届けられないこと

は社会の責任でもあります。また、虐待死の2～3割は0歳0日で亡くなっています。この場合の親は若く、妊娠・出産を周囲が知らないことが多いです。

④ 不在：女性が働くことで、地域や家庭に子どもの面倒をみる人が減っているため、保育所等を増やしています。また、働く親の子育ての時間を保障するためには、会社も変わらなくてはなりません。

⑤ 不調：子ども達の体力の低下、睡眠不足、偏食、情緒が不安定、非認知的能力の低下等、心身の不調などがあります。

課題に対して何をしてきたのか

この10年間、制度や支援施策が整備されてきました。また虐待防止や子育て支援への取り組みもされてきました。

しかし、地域住民の支え合いが減り子どもの問題が増えていく中で、孤立防止の活動や、家庭を訪問する支援、乳幼児期の支援、専門職だけではなく地域住民も一緒になって活動することが今後の課題となっています。



「講演の様子」

今後の課題への提案

まず、支援する視点のキーワードは「孤立」です。孤立を防止すると、個人の抱える問題が小さいうちに解決・解消でき、大きな問題の予防になります。つまり主任児童委員の方々は予防のための活動を期待します。

例えば、子育て情報提供のためのチラシ配り、話し相手・相談相手になるために大人同士の挨拶運動や地域支援拠点へ出向くこと、障害児の親へ地域イベントの参加の声掛けをする等、孤立防止のため重要な活動になります。

次に、乳幼児期に適切な保育・教育を受けさせること、

子ども、子育て不安を抱える保護者への支援について 提案 ～主任児童委員の役割～

I 支援の視点・予防・孤立防止・

- 地域での安定した生活が続けられるように支援(情報弱者情報提供等)
- 孤立しないように支援(ママ友づくり等孤立家庭支援、大人の挨拶運動等)
- 地域子育て支援拠点等でニコニコしているおばちゃん・おじちゃん
- 学習支援の実施
- 地域活動に障害児の参加促進

II 支援の時期の重点化－乳幼児期へ－

- 乳幼児の保護者が集まるところに行きニコニコしている
- とにかく「傾聴」して信頼関係を創る
- 子育て支援サービスの上手な使い方を伝える

III 支援の方法の改善

- ①アウトリーチ
 - 活動への参加(地域子育て支援拠点の活動、ホームスタート事業等)
 - いろいろな場所での出前相談・情報提供
 - さりげない家庭訪問活動
- ②屋外遊び
 - 屋外での遊びについての小さな提案
 - 屋外遊びを推進する団体の育成
 - 学校の校庭解放等の活性化
- ③民間力の活用(民間と行政の協働・市民参加が積極導入されている事業)
 - 地域団体やNPOなどの活動を見学、少し手伝う、一緒にやることから始める
 - 「営業拠点」づくり
 - 地域活動の支援・育成

親へ子育て学習の機会を提供することで、大人になって犯罪を発生させる率が減り、所得水準が高くなる等、社会的投資効果が高くなります。

最後に、今後期待される支援の方法を3つあげます。①アウトリーチ…プレパークの出前や家庭訪問等、支援の場所に来られない方のもとに出向いていく支援です。②屋外遊び…子どもの心身の健康のため、校庭の開放事業を活性化して、子ども達が集まるきっかけづくりをしていくことです。③民間力の活用…学生との活動や、株式会社・NPO等の団体が行っている子育て支援活動との繋

がりをつくり応援していくことです。このような主任児童委員の取り組みから、新しい形での支え合いの地域社会をつくっていきましょう。

プチグループ討議

講義中、3～4人で「委員活

動で、これから力を入れていきたいこと」について話し合い、発表していただきました。○支援の範囲や期間が長いため、委員同士も協力しながら問題事例を解決していきたい。○外国の方も含めて、地域の支援拠点に出来ない方への支援を考えていきたい。

わがまち主任児童委員活動紹介スライド



「子育てサロン 民生委員と一緒に お出迎え(川口市)」



「全員集合!子育てについて おおいに語ります(春日部市)」



「年に1回の視察研修赤城少年院 (深谷市)」



「狭山市主任児童委員会と交流会 (所沢市)」

全国研修会参加報告

平成27年度

「全国主任児童委員研修会（東日本）」

【期日】 8月31日～9月1日

【場所】 神奈川県横浜市

【本県参加者】 13名

「地域に根ざした

地道な活動」



協同児童市民能飯
町田 泰宏

8月31日から2日間にわたり、全国主任児童委員研修会（東日本）が、新横浜プリンスホテルを会場として開催されました。北海道から愛知県まで、総勢300名が参加し、本研修会のテーマは、「子どもたちの健全育成を支えるために」です。初日は、行政説明、基調講演、シンポジウムが行われました。行政説明は厚生労働省より現状分析、今後の取り組みについて説明を受けました。

基調講演は、明治学院大学教授松原康雄氏の講義で、子育て家庭の現状について詳しく説明していただきました。現在の貧困率は16・3%、その基準となる世帯一人当たりの可処分所得は122万円以下で、123万円は入らず、統計上貧困とみなされない家庭が多く存在し、現状はさらに深刻とお話しされました。シンポジウムでは、シンポジストの方々に実践に根ざした貴重なお話しを伺いました。なかでもフードバンク山梨の活動（企業が色々な事情から廃棄される賞味期限内の食品を引き取り、援助が必要な家庭に配布する取り組み）は、食料品を直接配布することによる目に見える形での支援、無駄になっってしまうものを資源に変えるシステムなど、これからもっともっと広げるべき活動と思われました。2日目は、終日分散会形式で、10人ごとの班に分かれワークシヨップを行いました。いろいろな地区の方との情報交換ができ、大変有意義でした。また、たとえば学校との情報交換でも、ある地区では一般的な話し

に終始し、別の地域では生徒一人ひとりの具体的な対策を毎回話し合うなどがありました。全体を通じて強く感じたことは、①情報の共有②子ども達の居場所づくりの推進です。ほんの小さなシグナルも見逃さず学校・行政・地域・主任児童委員が連携して素早い対応ができるための取り組みの強化、放課後の学習支援や施設開放等による子ども達を孤立させないための居場所づくりの取り組みなどです。

マザー・テレサが1981年4月に初来日の際に、「日本人は他国のことよりも、日本のなかで貧しい人々への配慮を優先して考えるべきです。愛はまず手近なところから始まります」という言葉があるそうです。地に着いた地道な活動こそが将来を照らす礎になると、再確認する貴重な研修でした。

「身近な『おとな』と

なるために」



協同児童市民尾上
細野 環

子どもや子育て家庭をめぐる

様々な課題のうち、子どもの貧困と非行問題に焦点をあて、児童委員、主任児童委員が子どもたちの身近な「おとな」になるためにどう関わっていくのかが今回のテーマでした。

一日目は行政説明（厚生労働省雇用均等・児童家庭局育成環境課松村智史氏）により、児童虐待、ひとり親世帯、子どもの貧困についての現状が様々な統計資料で解説され、今後児童委員、主任児童委員には関係機関との連携調整が期待されると強調されました。

続いて「子ども、子育て家庭をめぐる課題と主任児童委員活動」（明治学院大学教授松原康雄氏）の講義では、少子化、地域の無縁化（無援化）による子育ての孤立化、少年非行や子どもの虐待の動向が提示され、児童委員、主任児童委員は、まず子どもたちや家庭と顔見知りになり、安心して接することのできる身近な「おとな」となって、地域全体での見守り態勢のきっかけづくりとすること、連帯の基本は顔と名前的一致する関係づくりから、と話されました。

その後のシンポジウムは「子どもたちの健やかな育ちを支えるために～低所得世帯の子どもたちへの支援を考える～」のテーマで、支援活動を実践する三名（NPO法人フードバンク山梨の理事長米山けい子氏、児童養護施設養徳園の総合施設長福田雅章氏、横浜市鶴見区主任児童委員連絡会の代表上遠野麗子氏）がパネリストでした。食生活からの支援というフードバンクの活動と、福田氏の「養護される子どもは、子どもを取り巻く大人の関係性が貧弱」との言葉が印象的でした。

二日目の分散会（B会場）では、非行問題について事例を通して主任児童委員としてどう対処するかをグループ討議し、発表しました。当事者家庭と同じ地域に住む主任児童委員だからこそ分かることや出来ることがあり、身近な「おとな」のひとりになり得ると感じました。

話し合いを通して、各地域の実情や市町村による対応・連携する機関の違いなど知ることができ、貴重な経験となりました。

本県では、各市町村事務局より主任児童委員の方に参加希望を募って、本研修に参加していただいております。

平成27年度「第84回全国民生委員児童委員大会」参加報告

【期日】 10月16日～10月17日
 【場所】 富山県富山市・高岡市
 【本県参加者】 34名

「やりがいを見出し、活動しやすい環境を」



松山市民児協連合会
 会長 篠原 敏夫

10月15、16日の2日間、富山県富山市、高岡市で開催された全国民生委員児童委員大会富山大会に参加してきました。全国から3400名以上の方が参加されており、郷土色豊かなオープニングの後開会しました。1日目は式典の後、特別講義として「ククロヨン」が遺したものの「志の連鎖」と題して株式会社熊谷組相談役の大田弘氏の講演を聞きましたが、その中で語られた組織の枠を超え、役割の上下も超えて一つの目標に向かつて事業を完成させた当時の人々の心に感銘を受け、そのことを表した格言「駕籠に乗る人担ぐ人そのまた草鞋を作る



式典にて
 塩崎厚生労働大臣より
 主催者あいさつ

人」これこそ私たちの活動の中で忘れてはならない言葉であると感じました。2日目は10会場に分かれての活動交流集会で、私は「民生委員・児童委員が活動しやすい環境整備のために「関係機関との連携による取組の推進」と題する集会に参加しました。コーディネーターの高崎健康福祉大学教授金井敏氏の基調説明に続いて、3人の発表者の方から事例発表を聞きました。活動しやすい環境を担うのはまず行政であり、そして社協であると思いますが、行政との関係についてはやらされ感が先にあることが一番の課題であり、社協に関しては如何に密接な協力関係を保っていきけるかが課題であると考えます。3人の方の発表の中でもこの2つの課題が上手く解決できていることがうかがわれました。私の場合、行政との関係については広報活動の強化、納得し

満足感の得られる研修の開催等を第一に考えて展開し、その成果が得られつつあると考えていますが、社協との関係については地域福祉活動計画策定の業務の中で、もっと積極的に議論を展開していかなければならないと考えております。

今回3人の方からの発表の内容は、具体的な形こそ異なっているとしてもほとんどの皆さんが行っている活動であると思えますが、何より携わっている委員の方々が負担を感じることなく、地域の皆さんへの貢献にやりがいを見出していることが成功の原動力であると感じます。そしてこのことが他のいろいろな関係機関との協働・連携にも効果を発揮させることのできる秘訣ではないだろうかと考えました。



式典の様子

平成27年度各種表彰受章者等の紹介

(敬称略)

春秋叙勲受章者

瑞宝双光章

【民生委員功労】(春)

春日部市 鈴木 浩子

瑞宝単光章

【統計調査功労】(春)

上尾市 廣田 眞理子

【民生委員功労】(秋)

越谷市 佐藤 博

春秋褒章受章者

藍綬褒章

【民生委員功労】

幸手市 家田 昭枝(春)

志木市 矢部 勝雄(秋)

危険業務従事者叙勲

瑞宝双光章

【警察功労】

飯能市 藤本 重成(春)

ふじみ野市 目黒 善治(春)

熊谷市 西田 四郎(秋)

飯能市 浅見 忠三(秋)

瑞宝単光章

【警察功労】

小川町 中嶋 久幸(春)

厚生労働大臣表彰

【民生委員功労】

川口市 横田 妙子

川口市 北原 信泰

朝霞市 須田 菊枝

新座市 渡邊 洋子

蕨市 本坊 ミナ子

富士見市 吉田 京子

川越市 猪野 晴代

川越市 金子 眞弓

越谷市 染谷 登士子

越谷市 松下 薫

さいたま市 石田 照子

さいたま市 大熊 ミネ子

さいたま市 横山 敦子

【民生委員優良活動団体表彰】

蕨市南町地区民児協

「通学児童の見守り活動等」

10年以上

平成28年度埼玉県の予算編成に対する要望書を提出

平成 27 年 9 月 18 日、埼玉県庁において奥富会長から、平成 28 年 12 月に実施する一斉改選に伴う定数等の増員要望や民生委員の適切な人材確保に向けた環境整備について、田島福祉部長へ要望書を提出しました。

◆ 要望内容 ◆

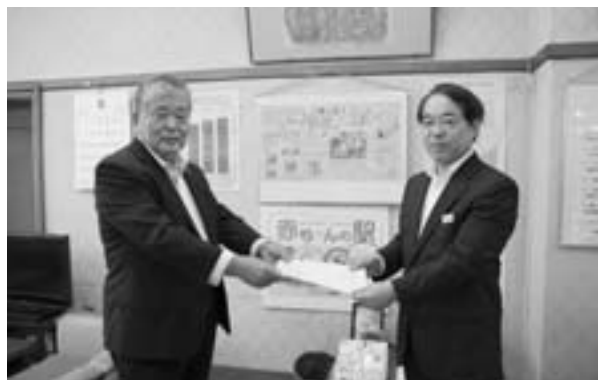
【民生委員・児童委員一斉改選(平成 28 年 12 月実施)に伴う民生委員・児童委員定数等の増員要望について】

- 1 住民に最も身近な相談・支援活動の担い手である区域担当民生委員・児童委員の増員をお願いいたします。
- 1 子どもや子育て家庭をめぐる問題がなお深刻化する中、関係組織との連携を図りながら、児童委員としての活動を積極的に展開するため、主任児童委員の増員をお願いいたします。

【民生委員・児童委員の適切な人材確保に向けた環境整備について】

民生委員・児童委員候補者の選出について

地域住民から信頼を得ている候補者を推薦する上で、市町村行政が民生委員・児童委員候補者の選出を町会・自治会長へ直接依頼するのではなく、地域の実情を把握している民生委員・児童委員又は単位民生委員・児童委員協議会が候補者を選出し、町会・自治会長に推薦を依頼する方式を埼玉県福祉部から市町村行政に対して御指導いただくことをお願いいたします。



奥富会長から田島福祉部長へ要望書を提出しました。

上田埼玉県知事との意見交換会(表敬訪問)

平成 27 年 11 月 9 日、平成 28 年 12 月の民生委員一斉改選に向け、上田埼玉県知事と埼玉県民児協正副会長との意見交換の機会をいただき、民生委員の活動状況や地域の実情等について話し合いました。

また、平成 29 年に迎える民生委員制度創設 100 周年のシンボルマークの記念ピンバッチを贈呈し、民生委員活動のさらなるご支援・ご協力をお願いしました。



「民生委員・児童委員100周年」シンボルマーク



上田知事と本会正副会長との意見交換の様子



奥富会長から上田知事へ記念ピンバッチを贈呈しました。

平成27年度 生活福祉資金貸付制度説明会の開催

平成 27 年 10 月 9 日(金)さいたま市民会館おおみや 大ホールにおいて、県社会福祉協議会と共催により、県内の各市町村で日々活動されている民生委員 289 名の御参加のもと、標記説明会を実施しました。

説明会では、はじめに、生活福祉資金貸付制度の沿革や制度の概要、貸付の手続きについて振り返ることで貸付及び償還の現状等について理解を深めるとともに、今年度から施行された生活困窮者自立支援法と貸付制度の連携について説明を行いました。また、当日は、民生委員の支援により解決が図られた父子世帯の子供の進学や、高齢者世帯の自宅の補修等の対応事例の紹介もありました。

生活福祉資金の貸付を希望される方々は、資金の種類により学生から高齢者まで幅広い年齢層の方が対象となります。

そのため、民生委員は、日頃、それぞれお住まいの地域の方々へサロン活動や訪問・相談活動といった様々な支援活動を行っていることから、その活動を通じて支援の一つである生活福祉資金貸付制度の周知を図っていただくことが期待されます。



会場の様子

孤立防止に取り組み、地域福祉活動の活性化を目指す ～孤立防止フォーラムでの実践報告～

地域における福祉課題が複雑・多様化、深刻化している中、単身世帯の増加に加え、地域における人間関係の希薄化が進み、孤立・孤独の問題が顕在化しています。

そこで、各地域の孤立防止の取り組みを通して、今後の地域福祉活動の方策を考えることを目的に、県社協と市町村社協が協働して「孤立防止フォーラム」を県内 10ヶ所で開催しました。フォーラムは、平成 24 年度から毎年開催していますが、今年度は、高齢者支援に、生活困窮者や子育て家庭への支援、児童・青少年の見守り等の活動を加えて実践報告等があり、地域のつながりづくりの推進について考えました。

民生委員とともに、地域の福祉課題を一緒に理解し、お互いさまの地域づくりに参画していただける住民や支え合いの輪が広がることを期待するものです。

各会場報告



○皆野会場
(9月4日)

皆野町民児協
太幡会長

「児童の見守りで見えてきたもの」
として実践報告



○羽生会場
(10月21日)

加須市騎西地区
民児協
内田副会長

民生委員とボランティアによる「ひとり暮らし高齢者」の見守りに
ついて実践報告



○上里会場
(11月19日)

深谷市民児協
田島副会長

「誰もが安心して暮らせる地域社会を実現するために～民生委員の活動を通して～」として実践報告

わがまちの 民児協 活動紹介ルポ

～第28回～

吉川市民生委員・
児童委員協議会



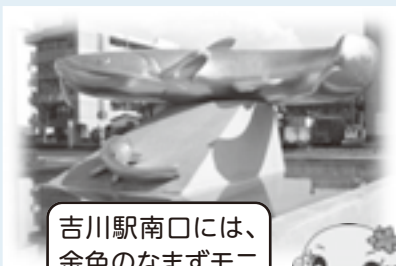
会長 野中 八重

概況(平成27年12月1日現在)

- ・人口……………70,974人
- ・世帯数……………28,231世帯
- ・高齢化率……………21.36%
- ・単位民児協数……………4地区
- ・民生委員定数……………108人
- ・主任児童委員定数……………8人

「なまずの里よしかわ」

吉川市は「なまずの里」として、古くから川魚料理の伝統が根付くまち。水と緑豊かなのどかな田園風景や、四季折おりの花や木は景色を彩ります。27年2月には人口7万人を超え発展を続けています。



吉川駅南口には、
金色のなまずモニュメントが!



お互いの顔の見える定例会

吉川市民児協は第2水曜日に中央公民館を会場に、4地区に分かれ、定例会を一齐開催しています。会では、お互いの顔が見える席づくりや輪番制の司会など、円滑な会の運営を心掛けています。事例を通じた委員同士の積極的な意見交換は、委員一人ひとり日々の活動にも活かされています。

ます。また、各関係機関の職員にも出席いただき、幅広い情報共有を行っています。

積極的な部会活動

4つの福祉部会や広報、研修、主任児童委員連絡会、災害時一人も見逃さない運動実行委員会などの各専門部会では、地域の施設や学校への支援・協力、研修会、講演会、視察研修など、それぞれの特色を活かした活動を行っています。

また民児協の広報活動として、年1回、広報紙『ほほえみ』を発行・全戸配布しています。今年度は子ども・子育てをテーマにし、メンバーは各部会や地区事業・研修、地域行事や施設などの取材のほか、1人でも多くの方に、民生委員を知っていただくため精力的に活動しています。



▲ほほえみ第28号

保護司会との交流

年1回、保護司さんとの合同研修会、定例会の場をもち、交流を図っています。

高齢者の見守りと支援

日頃からの見守り活動はもちろんのこと、70歳以上の一人暮らしの方を対象に、急な入院や災害などの緊急時の備えとして活用できる「安心リュック」を、民生委員が訪問し、配布しています。



▲常備薬やお薬手帳、着替え等の保管をご案内しています

寺子屋事業への協力支援

平成21年度に市社会教育委員がプロジェクトチームを結成し、市内の子どもたちに、今何が必要かを検討・提言された事業です。観龍院住職の西山祐照さん(保護司、元民生委員)が、夏休みに「学ん

で遊べる子どもたちの居場所づくり」を自治会長に呼び掛け、高富集会所「寺子屋」が開講しました。高富町会とPTA、老人クラブで組織する実行委員会(委員長 杉浦元之町会長)主催により、地区の民生委員のほか、ボランティアも多数参加。午前中は大学生が担当する勉強会。お楽しみランチタイム・ゲーム・映画鑑賞など、6日間、日替わりの内容で行われ、子どもから大人まで世代を超えた楽しい交流の場となりました。

▲高富寺子屋の様子



毛呂山町民生委員・児童委員協議会

概況(平成27年12月1日現在)

- ・人口……………35,007人
- ・世帯数……………15,739世帯
- ・高齢化率……………29.7%
- ・単位民児協数……………1地区
- ・民生委員定数……………72人
- ・主任児童委員定数……………3人

会長 岡野 國明

毛呂山町は、ゆず香る里、950年以上の伝統を誇る流鏑馬(やぶさめ)、四季彩ゆたかな鎌北湖と箕和田湖、武者小路実篤(むしやこうじさねあつ)ゆかりの新しき村、高度な先進医療を提供する埼玉医科大学病院がある医療と福祉の町、さらにスポーツ健康都市宣言を掲げ、歴史と文化に彩られ、発展してきました。昭和30年に旧毛呂山町と川角村が合併してから、平成27年4月1日をもって60周年を迎えました。

毛呂山町民児協の活動

毛呂山町民児協は、1単位のみで、委員定数は75名となっております。協議会としての活動は、講演、勉強会、県内外の視察研修などを行っていますが、年間を通じて内容に偏りがないよう、また、アンケートをとり、委員にとって関心のある内容となるよう心がけています。

毎月の定例会では、お互いの活動についての理解を深め、委員相互のつながりを深めていくことを目的に、各委員が日頃の活動で経験してきたことを皆の前で発表する機会を設けています。平成26年

度から、毎月の定例会の前に役員会を開催し、協議会の総合計画、各部会・各種団体との連絡調整を図るほか、個々の委員からの相談ごとに応じ、その解決方法や支援方法について検討し、委員相互の連携に努めています。

また、高齢者福祉部会・障害福祉部会・児童福祉部会のテーマ別部会では、施設見学、各種行事・社協への協力などを行っていきます。少人数であるメリットを生かし、気軽に話し合える情報交換の場としての機能も持たせていきます。



▲定例会でのグループワークの様子

毛呂山町民児協だよりの発行

広報部会の活動は、各部会から3名ずつ、9名で構成され、民児協だよりを年に2回発行して委員及び関係部署に配布し、民生委員活動の理解、協力が得られるよう努めます。



▲町の民児協だより

地域や関係機関との連携

町社会福祉協議会事業への協力として、ふれあい・いきいきサロン活動への参加、健康管理や安否確認等のため週2回の配食サービス、毎週水曜日の心配ごと相談、赤い羽根共同募金活動、金婚夫婦祝い事業など様々な活動に参加し地域の状況把握に努めています。

平成26年4月1日から行政区を単位とした地域住民の方々が地域で暮らす高齢者等を見守る「地域福祉サポーター制度」が実施され、地域福祉サポーターの方々と連携し、地域の見守り活動の強化を図るとともに、より良い地域づくりを目指しています。

そのほか、町内小中学校との情報交換会に参加し、各学校の抱えている課題などについて、情報の共有を図っています。

日帰り研修・県外研修

毎年、日帰り研修と県外研修を開催しています。

平成27年度は、5月に日帰り研修として、熊谷市にある「障害者支援施設 新光苑」を訪問し、開かれた障害者支援施設をめざしているという、全国唯一の脳性麻痺専門施設及び施設内美術館を見学しました。

10月には、県外研修として、「いわき市社会福祉協議会」を訪問し、東日本大震災活動の記録についての説明を受け、東日本大震災からの復興について、災害救援ボランティアセンターの取組み、復興支援ボランティアセンターの活動について現場に携わった職員から貴重な講話をいただきました。



▲県外研修 (福島県いわき市社会福祉協議会)

「民生委員・児童委員の声」



深谷市上柴地区
民生委員・児童委員協議会

山口 達男 氏

奮闘する愚直な民生委員のプチサークル活動

○ プチサークル（少人数）活動

登校時の子ども達との「おはようございます」「おはよう」「元気出そう」と声掛けやハイタッチ。一人暮らしの高齢者・要支援の方との「お元気ですか」「ご苦労さん」「また来てね」とふれあいの声掛けと見守り訪問。

子ども達の元気な挨拶と高齢者・要支援の方の微笑みや、地域の方の励ましと支えで私の自称「プチサークル活動」を続けています。

○ 私のめざす民生委員とは

民生委員とは、地域住民の方に最初に接する制度上の奉仕者であってそれは「First Aider (Responder)」です。

①最初の見守り者として、相手の言葉に耳を傾ける支援者であり、②ご近所活動をしやすい環境作りや後押し役であり、③問題を抱えた人が問題を隠したり、支援を求めず引きこもることのない「お互いさま」のさりげない見守りをします。こうしてセカンド・サードエイドの行政や専門機関に繋いでいきます。

○ 私の重点課題の見守り活動

私は日頃から自治会等を通して、高齢者や要援護者の方の見守り等をお願いしています。

①班長さん、隣り近所、災害時要援護者の緊急時避難協力者の方や買い物困難者の手伝いの協力者に見守りや安否確認のお願いをしています。②老人会の見守り訪問は、市の支援を頂きながら相性の問題もあり担当者を決めて話し相手、健康状態や気になる事を観察してもらい、お互いさまの見守り訪問を支援しています。③子ども達の「まごころ訪問」は学校の協力のもと、子ども達が育てた花と手紙（メッセージ）を子ども会の役員の方や民生委員とてお届けして、子どもとお年寄りの交流を図っています。

○ これまでの活動を振り返って

悪戦苦闘し挫折しかかりながらも、ほろ苦くもあり楽しくもある「プチサークル活動」欲は無く、人からでくの坊と言われても率先して役割を引き受けるその「愚直」さがやがて理解され、信頼されていくものと思います。

平成28年 県民児協の予定

日	内容	会場
15日	拉致問題啓発演劇公演	川口市「リアア」
21日	社会福祉関係者新年賀詞交歓会	さいたま市内
27日	男女共同参画推進セミナー	すこやかプラザ
29~30日	全国児童委員研究協議会	神奈川県横浜市
4日	児童虐待防止セミナー（県子ども安全課）	市民会館「おおみや」
8日	民生委員・保護司連絡会	すこやかプラザ
8日	民生委員・保護司合同研修会	すこやかプラザ
10日	単位民児協会長・副会長研修（A）	大宮ソニックシティ
15日	正副会長会議	すこやかプラザ
17日	単位民児協会長・副会長研修（B）	大宮ソニックシティ
17~19日	全国民生委員指導者研修会	神奈川県葉山町
22日	広報委員会	すこやかプラザ
29日	全民児連 評議員会	東京都千代田区
3日	第135回理事会	すこやかプラザ
18日	第138回評議員会	すこやかプラザ

埼玉県民児協のホームページを リニューアルしました

リニューアルしたホームページでは、本会からのお知らせや、セミナー等の開催報告、広報紙等を随時紹介しています。これからも広報・啓発活動の向上のため、改善と内容の充実に向けてまいる所存でありますので、ご活用いただきますようご案内申し上げます。

埼玉県民児協

検索

クリック

<http://www.saitama-minjikyoo.or.jp>

編集後記

明けまして、おめでとうございます。新しい年が始まりました。

様々な研修や、講演会等で知識を高めながら、忙しく、瞬く間に1年が過ぎました。マイナンバー制度がいよいよ開始され、まだ戸惑いやら、不安やら隠しきれません。なるようになれ!でしょうか?民生委員制度ももう100周年を迎えます。素敵な記念のバッチができ、胸に輝きを増すことでしょう。新たな気持ちで自分に誇りを持ち、地域の見守りや信頼を受けられる委員として、活動をして行こうではありませんか。委員皆様のご健康とご多幸をささやかではありますがお祈り申し上げます。

(蓮田市 大野 禮子)